

よりよい未来に向けて 必要な力を考える学びを

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



くると分かれれば、取り組む方も変わってくるはず。SDGsの学びは、そのきっかけになると思います」と、その意義を語ります。SDGs教育は、持続可能な社会を実現することの必要性だけでなく、誰もが未来を変える力を持つて伝えることを子どもたちに伝えています。



石神渾司校長(左)と海洋ごみ問題の授業を行った後藤翔大先生(右)。

子どもたちは、実際に答志島の北西部に位置する奈佐の浜から持ち帰った砂から、海洋生物や環境に大きな影響を与えると考えられる微小なプラスチック粒子「マイクロプラスチック」を採集。授業後には、「岐阜県には海はないが、川は海につながる、海洋ごみ問題は私たち全体の

問題だと実感した」という声も聞かれました。最後に子どもたちは、100年後までに海洋ごみをゼロにするために取り組むべきことを、様々な立場で考察。翌朝には、実際に長良川の清掃を行い、学びを行動へとつなぎました。



奈佐の浜の砂からマイクロプラスチックを採集。

実際に見つかったマイクロプラスチック。

授業での学びを 未来へどう生かすのか

こうした学習は、日常の中でも子どもたちに変化をもたらしています。例えば毎日給食では、牛乳に使用するストローが本当に必要なのかと、自主的に問題意識を持ち始める姿も見られるように。石神渾司校長は「子どもたちからは、ストローの使用は衛生面のメリットもあるという意見も出され、こうした問題は1つの正解が出せることではありません。しかし大切なのは、これまでの学習や経験から、自分たちができることを考え、実践すること。その中で、日々行っている各教科の学習や活動も、すべてよりよい未来をつ

自分ができることを自ら考える機会に

岐阜市立長良西小学校では、未来の幸福な人生とよりよい社会をつくるために何ができるかを子どもたち自身が考えるために、その入口となる授業が必要と考え、3年前から3年生以上の総合的な学習の時間に、SDGs教育を取り入れてきました。



グループごとに海洋ごみをなくすために必要な取り組みを発表。

SDGs特集 教育 × SDGs

第2回

持続可能な社会の実現に向けて、今の時代に生きている私たちができること。その1つが、未来の担い手である子どもたちへその大切さを伝え、よりよい社会づくりに主体的に関わっていく力を育むことです。そのため、今多くの教育現場でSDGs教育の取り組みが始まっています。

OKB 大垣共立銀行

社会保険労務士
加藤一正事務所

岐阜県 J A グループ

岐阜信用金庫

株式会社 三光堂

私たちは持続可能な
開発目標SDGsを
支援しています。

※50音順

プロジェクト特設サイトオープン

最新事例を紹介

支援している企業の
取り組み情報や活動事例の
紹介はこちらから



取り組み企業、事例について
お寄せください。

SDGs岐阜推進プロジェクト事務局
中日アド企画 岐阜支社内
岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル7階
TEL.058-265-6281

SUNSHOW GROUP
三承工業株式会社

十六銀行

トヨタホーム岐阜株式会社

子どもの可能性を引き出します。
HUMAN HEART

株式会社 マルエス産業